

# I 道徳 いじめストップ！（1組）

## 1 学習の概要

2年生の子どもたちは、学校生活にも慣れ、集団の意識もしだいにでき、交友関係も拡大してきています。しかし、遊びや共同生活の中では、まだ自己中心的な考えが強く、自分の考えをうまく相手に伝えられなかったり、相手の気持ちを考えられなかったりしてトラブルになることもあります。そこで、互いに仲よくするために必要なことを仲間と共に考える機会が必要と考え、いじめ問題を題材としたグループ活動を行いました。グループ活動の中で、相手の意見を聞いて、相づちの言葉で認め合い、意見をまとめる活動を通して、人間関係スキルの向上を図りました。

資料「わたしのいもうと」は、何気ないいじめによって傷つき、学校に行けず心を閉ざし、死に至った妹についての話であり、作者のもとに届いた一通の手紙から生まれた、実話に基づく絵本です。「いじめ」のせいで死んでしまった人がいるという事実を伝えることで、いじめがないクラスにするにはどうしたらいいか考えさせる契機にしたいと思いました。

## 2 ねらい

- 感情を共有し合える仲間としての気持ちを高めることで、いじめは絶対にいけないという思いをもつことができる。

## 3 取り組み

- (1) 「いじめ」アンケート結果から、課題をつかむ

事前にこのクラスの中で嫌だったことや言われて嫌だった言葉についてアンケートを行い、結果の模造紙を黒板に貼り、クラスで共有しました。アンケート結果を見た感想を子どもたちに聞くと、「いじめられた人は忘れないのに、いじめた人は忘れてしまう。」「こんなに嫌なことを言われたりされたりしている人がいるなんて、びっくりした。」など、驚いている様子でした。

- (2) 資料「わたしのいもうと」の読み聞かせを聞き、感想を伝え合う

子どもたちは、始終真剣に読み聞かせを聞いていました。読後の感想を聞くと、「いじめで死んでしまう人がいるなんて、絶対にいけない。」「いじめた人が平気なのはいけない。」「このクラスの意地悪をなくしたい。」と、次々に意見が出されました。



読み聞かせの様子

- (3) いじめをなくすためにはどうしたらいいかホワイトボードに書いて話し合う

- ① いじめをなくす方法について、自分ならどうするのかプリントに書く。

まず、どうしたらこのクラスからいじめがなくなると思うか、プリントに書いて、自分の意見をもつようにしました。

② ファシリテーターが、いじめをなくす方法について意見を聞いて書く

机を4、5人の班にして、ファシリテーターを一人決めました。いじめをなくすための方法について友だちの意見を聞いてホワイトボードに書きました。

意見を聞いた後は、「しつもののわざカード」を使って、友だちの意見に質問し合いました。「先生に言うのはいいけれど、先生がいなかったらどうするの？」など、お互いの意見を深め合う姿が見られました。



話し合いの様子

③ 友だちの考えた方法について、いいと思うところに線や言葉を赤ペンで書く

友だちが書いた内容について、いいと思うところに赤で線を引き、「うんうん」「なるほど」などの共感する言葉を書きました。自分の意見が、グループの中で認められる時、嬉しそうにしている子どもたちの姿を見ることができました。

④ 一番いいと思う意見を青ペンで書いてまとめる

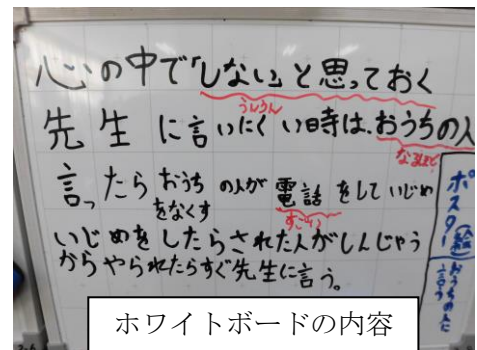
いいと思うところに引いた赤線を参考にしながら、一番いいと思う意見を青ペンで書いてまとめました。「先生やお家の人に言う。」「いじめをなくそうと呼び掛けるポスターを書く。」など、様々な意見が出されました。

(4) ホワイトボードを黒板に貼って共有する

話し合ったホワイトボードを黒板に貼り、クラスで共有しました。子どもたちが真剣に話し合ったことをクラス全体に伝えました。

(5) いじめがないクラスにするために、これから自分にできることを書く

話し合ったことを基に、自分にこれから何ができるのか考えました。「叩かないで口で言うようにする。」「嫌なことは嫌と言う。」「先生やお母さんに話す。」など、具体的にどうしたらいいのか、真剣に考えていました。



ホワイトボードの内容

#### 4 成果と課題

アンケート結果を扱うことで、自分たちの生活に根ざした問題を真剣に話し合い、解決方法を考えることができました。また、資料「わたしのいもうと」は、読後の感想もとどまることなく、いじめについて真剣に考えるきっかけになりました。さらに、ホワイトボードを使った話し合いでは、全員の子どもたちが自分の意見を友だちに聞いてもらう中で、いじめをどうしたらなくせるのか一生懸命考えることができました。

限られた授業の中で、話し合いの時間の確保が課題として残りました。せっかく「しつもののわざカード」を使い、互いに質問し合うことを積み重ねてきたのだから、もっと子ども同士で話し合う時間を確保したいと思いました。この反省を生かし、二学期のお楽しみ会の計画を班でホワイトボードを使って立てました。しっかり話し合い、楽しいお楽しみ会をすることができました。今後も互いに認め合いながら、共通の問題を解決する中で感情を共有し合える仲間としての気持ちを育てていきたいです。また、教師主導の授業から、子どもたち一人ひとりがアクティブに参加できる授業を目指したいと考えています。